報告第２７号

令和８年度 全国学力・学習状況調査の結果について

教育総務課

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について、別紙のとおり報告いたします。

令和８年度 全国学力・学習状況調査の結果について

教育総務課

千曲市では児童生徒一人ひとりに、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するために、全国学力・学習状況調査を行い、学力や学習の状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善などに活用しています。

小学校６年生および中学校３年生を対象に、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するために、「全国学力・学習状況調査」を行い、学力や学習の状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善などに活用しています。今年度は、国語、算数・数学・英語が実施されました。

この調査により測定できるのは、児童生徒の学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面であることに留意して結果・分析をご覧ください。

「全国学力・学習状況調査」

■調査日　令和８年４月２３日（木）
英語（話すこと調査）は５月 12 日（火）から５月 21 日（木）にかけて実施。

■対象者　小学校６年生（９小学校）470 / 511 人、中学校３年生（４中学校）409 /472 人

■調査内容　○教科に関する調査　○生活習慣や学習環境などに関する児童生徒質問紙調査

■調査方法　中学校英語は文科省の CBT システムによるオンライン方式で実施（一人一台端末での解答）、令和９年度からは小中学校とも全教科が CBT での実施に変更される。

「全国学力・学習状況調査」　教科に関する調査

調査科目		平均正答率の比較・調査結果の概要	今後の取組
小学校６年生	国語	**○全国・長野県と同程度** 自分の考えとそれを支える理由を事例や情報を関連付け、伝わるように書く問題について、正答率が低い傾向がみられ、学校間での指導格差も課題となっています。	「引用する目的を明確にする」「正確に引用する」「引用した情報と自分の考えの関係を明確にし、区別して書く」等、学習の目的意識を高めながら指導を進めていきます。
	算数	**○全国と同程度・長野県よりやや上回る** 用語の理解や計算問題は正答率が高い一方、全国的にも課題とされた立方体の体積を求める問題など図形や体積の意味や概念の理解については全国同様正答率が低く課題があります。	用語や式の解き方だけでなく、立方体の体積など図形や量の概念理解に向けて、具体物や身の回りの場面を用いた実感を伴う学習を充実させていきます。
調査科目		平均正答率の比較・調査結果の概要	今後の取組
中学校３年	国語	**○全国・長野県と同程度** 文脈から漢字を正しく書き、語句や文章の中で使う問題は全国と比較して良くできています。全国でも課題とされている「単語の類別についての理解」は同様の傾向がみられました。	単語の分類について、より理解を深め、文節の作りや文の成分、活用方法など生徒の気づきを促せるよう指導を続けていきます。

生	数学	**〇全国よりやや下回る・長野県と同程度** 四角形の２辺が平行の根拠となる二つの角を書く問題、２つのさいころの目が出る確立を求める問題が全国と比較してやや低く、課題がみられます。	平行になるための条件を、具体物を使って実際に操作しながら確かめる、確立を樹形図や二次元の表を利用して整理するなど、実感を伴った理解につながる学習活動を充実させていきます。
	英語	**〇全国よりやや下回る・長野県と同程度** 日常的な会話の中から必要な情報の読み取ること、聞き取ることについては正答率も高く良くできていました。	読み取ること、聞き取ったことから要点を捉え、理由や根拠を表現する際に、聞き手の意図に留意し表現する力の育成をすすめていきます。

※「平均正答率の比較・調査結果の概要」は、千曲市と全国や長野県の公立小・中学校との平均正答率を比較するなどの分析から、市内の児童生徒の学習状況の特徴や課題を記述しています。
これを踏まえ「今後の取組」は、これから小中学校で取り組んでいく指導の方向を記述しています。

「全国学力・学習状況調査」　生活習慣や学習環境などに関する児童生徒質問紙調査

区分	質問	はいと回答した割合(%) （　）は令和７年度		全国との比較
		小学校６年生	中学校３年生	
自己有用感	自分にはよいところがあると思いますか	92.2 (86.5)	83.9 (91.3)	全国と比べて、小６児童は上回っています。中３生徒は同程度です。
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	95.9 (95.0)	92.3 (97.2)	全国と比べて、小６児童は上回っています。中３生徒は同程度です。
生活習慣	朝食を毎日食べていますか	95.2 (96.1)	94.9 (95.1)	全国と比べて、小６児童は同程度です。中３生徒は上回っています。
家庭学習習慣	学校の授業以外に、平日１時間以上勉強していますか	45.3 (47.6)	60.5 (55.6)	全国と比べて、小６児童は下回っています、中３生徒は同程度です。
	学校の休みの日に、１時間以上勉強していますか	39.5 (45.9)	64.7 (64.6)	全国と比べて、小６児童は同程度です。中３生徒は大きく上回っています。
GIGAスクール	これまでに受けた授業で､PC･タブレットなどのICT機器を、週３回以上使用しましたか	83.2 (79.3)	96.6 (97.3)	全国と比べて､小６児童､中３生徒とも大きく上回っています。
地域や社会に関わる活動	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	85.5 (81.5)	80.1 (81.3)	全国と比べて､小６児童､中３生徒とも同程度です。

※上記の『「はい」と回答した割合』は、「１　当てはまる」、「２　どちらかといえば当てはまる」、

「3 どちらかといえば当てはまらない」、「4 当てはまらない」の選択肢の中から「1」または「2」を回答した児童生徒の割合です。

○自己有用感　自己有用感は、「失敗を恐れないで挑戦する」といった、子どもたち一人ひとりが将来にわたってよりよく生きていくためのエネルギーともなります。本市の小学6年生、中学3年生とも継続して良好な結果となっています。学校の先生との良好な関係の中で自分を精一杯伸ばしていることがわかります。本市の児童生徒と教師にとって誇るべき点です。

○生活習慣　本市の小中学生は早寝・早起き・朝ごはんの規則正しい生活をしており、特に「毎日同じ時刻に寝ていますか」の質問では、昨年度と比べて改善傾向にあります。一方、本市を含め、全国的に見ても、SNSや動画視聴の時間が増えていることもはっきりしており、睡眠時間の減少に大きく関わります。各家庭においても、SNSや動画視聴ルールづくりをするなど、疲労回復や体の成長につながる「睡眠」の良さについて再確認するよう促していきます。

○家庭学習　平日の家庭学習時間について、小学6年生では課題がありますが、中学3年生では全国と同程度まで改善しました。本市では部活動の地域展開が全国に先駆けて進められており、学校での活動時間や形態が変化することで、これまでの放課後・休日の過ごし方が大きく変化しようとしています。学校でも自ら計画的に学習を進めていく力の育成に努めており、「家庭学習の手引き」を作成するなど指導を進めています。地域・家庭・学校の支援のもと家庭学習につながるような授業の在り方について、より一層指導の工夫・改善をしていきます。

○GIGAスクール　本市は全国・長野県と比較して一人一台端末の活用は非常に進んでいます。「第二期GIGAスクール4か年計画」に基づき、本年度はリスタート期として、ICT機器の活用の目的やルールを再確認し、一人一台端末を学習ツールの1つとして有意義に利用して、個別最適な学びと協同的な学びの一体化をより深めていくことを意識して取り組んでいきます。

○地域や社会に関わる活動　総合的な学習の時間などでふるさとを学ぶ学習や学習発表会が展開され、私たちの地域のあるべき姿について考える機会を得ているためと考えられます。

今後の対応について

■各学校

○調査結果を全職員で分析・考察し、これまでの指導の成果と課題を明確にしたうえで改善策、向上策を策定し、実践していきます。特に、全教科を通した「共通課題」については学校経営にビジョンやグランドデザインにも反映させ全教職員で取り組みます。

○分析をもとに、年間をとおして授業の充実・改善に取り組み。児童生徒一人一人の学力の定着をともに学習意欲の向上を図ります。

○基本的な生活習慣や学習習慣の確立が学力の向上を図る上で重要であるとの認識に立ち、家庭学習の仕方について指導し保護者と連携して生活・学習習慣の改善や個々の学習改善に向けた取り組みに努めます。

○児童生徒の個々の結果については、個別懇談会などを通じて伝えるとともに、それぞれの課題に応じた学習指導を適切に行っていきます。

○一人一台端末については、千曲市GIGAスクール推進委員会を中心に研修などを充実させ、より有意義な活用を進めていきます。

■**市学力向上推進委員会**　　小中学校の学力向上推進担当者と教育委員会で組織

〇各校の調査結果について分析、考察、改善策の策定などを推進・支援し、授業改善、児童生徒の学習習慣獲得などを生かします。

〇中学校区内の情報交換に努め、小学校・中学校間で課題を共有します。

〇結果を分析して結果報告書をまとめ、「授業改善のポイント」「生活・学習習慣改善のポイント」「学校運営改善のポイント」を提言するなどして、各校の授業改善、児童生徒の生活改善などに生かします。

〇信州大学・谷地祐樹教授の指導のもと、より鋭角的に各校の授業改善を推進していきます。

■**教育委員会**

〇必要に応じて学校を訪問するなどして学校の毎日の授業の状況を共有し、学力向上推進、授業改善のために必要な指導や支援を行います。

〇適切な学びの場の設定、学習の困難さを克服できる支援の充実に努めます。

〇教職員の研修や配置及びGIGAスクール推進などの教育施策の充実に努めます。